

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ 追加型投信／国内／株式／特殊型（ブル・ベア型） ベア2倍日本株ポートフォリオⅣ ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ 追加型投信／国内／債券
信託期間	約3年間（2015年9月10日～2018年9月7日）
運用方針	ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ 日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの3程度逆となることをめざして運用を行ないます。
	ベア2倍日本株ポートフォリオⅣ 日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの2程度逆となることをめざして運用を行ないます。
	ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ 主としてわが国の債券への投資により、利息収入の確保をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ わが国の株価指数先物取引、わが国の債券およびダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
	ベア2倍日本株ポートフォリオⅣ わが国の株価指数先物取引、わが国の債券およびダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
	ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ イ、ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券口、本邦通貨表示の債券
運用方法	ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ ①主として、残存期間の短いわが国の債券およびマザーファンドの受益証券に投資するとともに、わが国の株価指数先物取引を買い建てます。 ②株式の組入総額と株価指数先物取引の買建玉の時価総額の合計額が、原則として、信託財産の純資産総額の3程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの3程度逆となることをめざします。
	ベア2倍日本株ポートフォリオⅣ ①主として、残存期間の短いわが国の債券およびマザーファンドの受益証券に投資するとともに、わが国の株価指数先物取引を売り建てます。 ②株価指数先物取引の売建玉の時価総額の合計額が、原則として、信託財産の純資産総額の2程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの2程度逆となることをめざします。
	ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ ①マザーファンドの受益証券およびわが国の債券を中心に投資することにより、安定運用を行ないます。 ②邦貨資産の組み入れにあたっては、取得時に第二位（A-2格相当）以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
組入制限	ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ ベア2倍日本株ポートフォリオⅣ ・マザーファンドおよび株式組入上限比率は無制限
	ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ ・マザーファンド組入上限比率は無制限 ・株式組入上限比率は純資産総額の30%以下
配分方針	配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、配当等収益等を中心に分配します。ただし、配当等収益等の額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてペビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

# ダイワ・ブルベア・ファンドⅣ

## ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ

## ベア2倍日本株ポートフォリオⅣ

## ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ

## 運用報告書(全体版)

### 第2期

(決算日 2017年9月7日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ・ブルベア・ファンドⅣ」は、このたび、第2期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<4628>

<4629>

<4627>

ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			日 経 平 均 株 価		株 式 先物比率	公 社 債 組入比率	純資産 総 額
	税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率				
	円	円	%	円	%	%	%	百万円
1 期末 (2016年 9 月 7 日)	6,614	0	△ 33.9	17,012.44	△ 9.4	303.5	28.3	67,688
2 期末 (2017年 9 月 7 日)	9,591	0	45.0	19,396.52	14.0	297.3	—	57,365

(注1) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

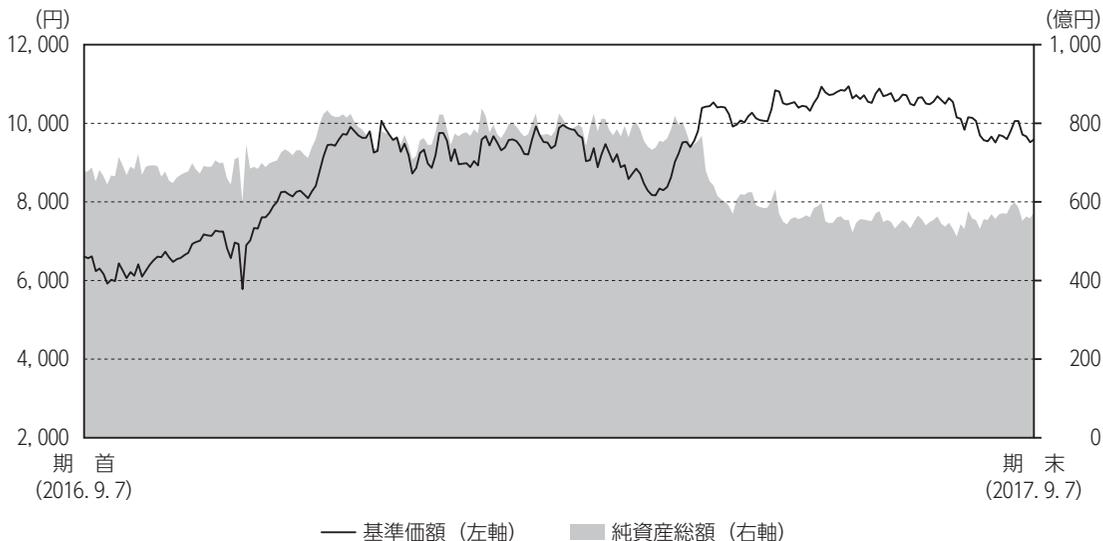
(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

期 首：6,614円

期 末：9,591円

騰落率：45.0%

#### ■ 基準価額の変動要因

日々の基準価額の値動きが日経平均株価の値動きの3倍程度の動きとなることをめざして運用を行ないました。2016年11月の米国大統領選挙でトランプ氏が勝利し、景気刺激政策への期待などから日経平均株価が上昇したため、基準価額も上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ・ブルベア・ファンドⅣ ブル3倍日本株ポートフォリオⅣ

年 月 日	基 準 価 額		日 経 平 均 株 価		株 式 先物比率	公 社 債 組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首)2016年9月7日	円	%	円	%	%	%
	6,614	—	17,012.44	—	303.5	28.3
9月末	6,099	△ 7.8	16,449.84	△ 3.3	300.5	11.6
10月末	7,245	9.5	17,425.02	2.4	301.8	1.6
11月末	8,257	24.8	18,308.48	7.6	299.0	14.6
12月末	9,296	40.6	19,114.37	12.4	292.7	—
2017年1月末	9,038	36.6	19,041.34	11.9	301.6	16.9
2月末	9,206	39.2	19,118.99	12.4	298.8	12.6
3月末	9,014	36.3	18,909.26	11.1	300.3	—
4月末	9,393	42.0	19,196.74	12.8	294.5	15.6
5月末	10,049	51.9	19,650.57	15.5	300.7	2.6
6月末	10,634	60.8	20,033.43	17.8	311.2	0.3
7月末	10,486	58.5	19,925.18	17.1	301.2	0.0
8月末	10,059	52.1	19,646.24	15.5	293.3	—
(期末)2017年9月7日	9,591	45.0	19,396.52	14.0	297.3	—

(注) 騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2016.9.8～2017.9.7)

### 国内株式市況

国内株式市況は、期首より、日米の金融政策や米国大統領選挙に関する見方が交錯し、一進一退で推移しました。2016年11月は、米国大統領選挙でのトランプ氏勝利を受けて一時的に投資家のリスク回避姿勢が強まり株価は下落しましたが、その後は、トランプ氏の景気刺激政策への期待から、上昇基調となりました。12月半ば以降は、株価の急上昇に対する警戒感に加えてトランプ氏の政策に対する期待と不透明感が交錯し、一進一退で推移しました。2017年4月に入ると、東アジアの地政学リスクの高まりが懸念され、株価は下落しました。しかし4月後半からは、地政学リスク悪化の一巡に加えて、フランス大統領選挙で中道派のマクロン氏が極右政党の候補者を抑えて当選したことが好感されて株価は上昇しました。6月以降は欧米中央銀行の金融引き締めペースの見方が交錯し、株価は横ばい圏で推移しました。8月に入ると、再び北朝鮮に関わる地政学リスクが高まったことや、米国の物価統計の弱含みにより米国の年内利上げ観測が後退したこと、また対米ドルでの円高が進行したことなどが影響し、株価は軟調に推移しました。

## 前期における「今後の運用方針」

### 当ファンド

当ファンドの運用方針に基づき、マザーファンドの受益証券に投資するとともに、わが国の株価指数先物取引の買建玉の時価総額の合計額が、原則として信託財産の純資産総額の3倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの3倍程度となることをめざして運用を行ないます。

### ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

## ポートフォリオについて

(2016.9.8～2017.9.7)

### ■当ファンド

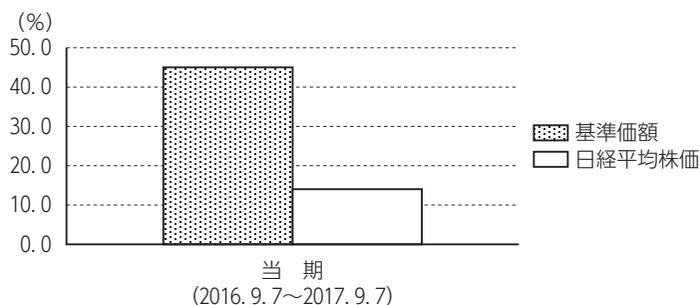
日経平均株価先物取引の買建玉の時価総額の合計額が、純資産総額の3倍程度となるよう調整しました。また、ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券に投資し、純資産総額に対して大きな追加設定および解約があった場合を除き、50～70%程度の組み入れを維持しました。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債、現先取引およびコール・ローン等による運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当期は、分配対象額が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

### 分配原資の内訳（1万口当たり）

項 目	当 期	
	2016年9月8日 ～2017年9月7日	
当期分配金（税込み）	(円)	—
対基準価額比率	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	—

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## 今後の運用方針

### 当ファンド

当ファンドの運用方針に基づき、マザーファンドの受益証券に投資するとともに、わが国の株価指数先物取引の買建玉の時価総額の合計額が、原則として信託財産の純資産総額の3倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの3倍程度となることをめざして運用を行ないます。

### ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行なう方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2016.9.8~2017.9.7)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	91円	1.004%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,104円です。
(投 信 会 社)	(29)	(0.324)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(59)	(0.648)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(3)	(0.032)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	8	0.090	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先 物)	(8)	(0.090)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	100	1.098	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネー・マザーファンド	81,029,712	82,600,000	87,309,484	89,000,000

(注) 単位未満は切捨て。

■先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

銘 柄 別		買 建		売 建		当 期 末 評 価 額		
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	評価損益
国 内	株 式	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
	日経平均	1,087,995	1,155,494	—	—	170,555	—	△ 887

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況 D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式先物取引	1,087,995	1,087,995	100.0	1,155,494	1,155,494	100.0
コール・ローン	6,979,001	—	—	—	—	—

(2) マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況 D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	285,947	66,921	23.4	—	—	—
コール・ローン	14,560,589	—	—	—	—	—
現先取引 (その他有価証券)	201,999	—	—	200,999	—	—

(注) 平均保有割合49.7%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	63,425千円
うち利害関係人への支払額 (B)	63,425千円
(B) / (A)	100.0%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表  
親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	期 首	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネー・マザーファンド	34,217,551	27,937,780	28,468,598

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年9月7日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・マネー・マザーファンド	28,468,598	47.7
コール・ローン等、その他	31,183,725	52.3
投資信託財産総額	59,652,323	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年9月7日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>59,650,556,062円</b>
コール・ローン等	24,507,351,882
ダイワ・マネー・マザーファンド (評価額)	28,468,598,171
未収入金	2,046,009
差入委託証拠金	6,672,560,000
<b>(B) 負債</b>	<b>2,285,019,588</b>
未払金	887,944,409
未払解約金	1,072,073,638
未払信託報酬	323,923,482
その他未払費用	1,078,059
<b>(C) 純資産総額 (A - B)</b>	<b>57,365,536,474</b>
元本	59,813,440,217
次期繰越損益金	△ 2,447,903,743
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>59,813,440,217口</b>
1万口当り基準価額 (C / D)	9,591円

\* 期首における元本額は102,335,123,725円、当期中における追加設定元本額は256,394,725,950円、同解約元本額は298,916,409,458円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,591円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は2,447,903,743円です。

■損益の状況

当期 自2016年9月8日 至2017年9月7日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>△ 4,012,842円</b>
受取利息	11,605,094
支払利息	△ 15,617,936
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>△ 12,444,001</b>
売買益	6,258,753
売買損	△ 18,702,754
<b>(C) 先物取引等損益</b>	<b>△ 140,012,909</b>
取引益	17,250,990,594
取引損	△ 17,391,003,503
<b>(D) 信託報酬等</b>	<b>△ 691,973,312</b>
<b>(E) 当期損益金 (A + B + C + D)</b>	<b>△ 848,443,064</b>
<b>(F) 前期繰越損益金</b>	<b>△ 27,625,834</b>
<b>(G) 追加信託差損益金</b>	<b>△ 1,571,834,845</b>
(配当等相当額)	(△ 5,851,323)
(売買損益相当額)	(△ 1,565,983,522)
<b>(H) 合計 (E + F + G)</b>	<b>△ 2,447,903,743</b>
<b>次期繰越損益金 (H)</b>	<b>△ 2,447,903,743</b>
追加信託差損益金	△ 1,571,834,845
(配当等相当額)	(△ 5,851,323)
(売買損益相当額)	(△ 1,565,983,522)
繰越損益金	△ 876,068,898

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程(総額)」の表をご参照ください。

■収益分配金の計算過程(総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	0
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	0
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	0
(h) 受益権総口数	59,813,440,217口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA(ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

ベア 2 倍日本株ポートフォリオⅣ

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			日 経 平 均 株 価		株 式 先物比率	公 社 債 組入比率	純資産 総 額
	税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率				
	円	円	%	円	%	%	%	百万円
1 期末 (2016年 9 月 7 日)	8,471	0	△ 15.3	17,012.44	△ 9.4	△ 192.5	28.9	7,690
2 期末 (2017年 9 月 7 日)	5,737	0	△ 32.3	19,396.52	14.0	△ 201.1	—	9,744

(注 1) 株式先物比率は買建比率 - 売建比率です。

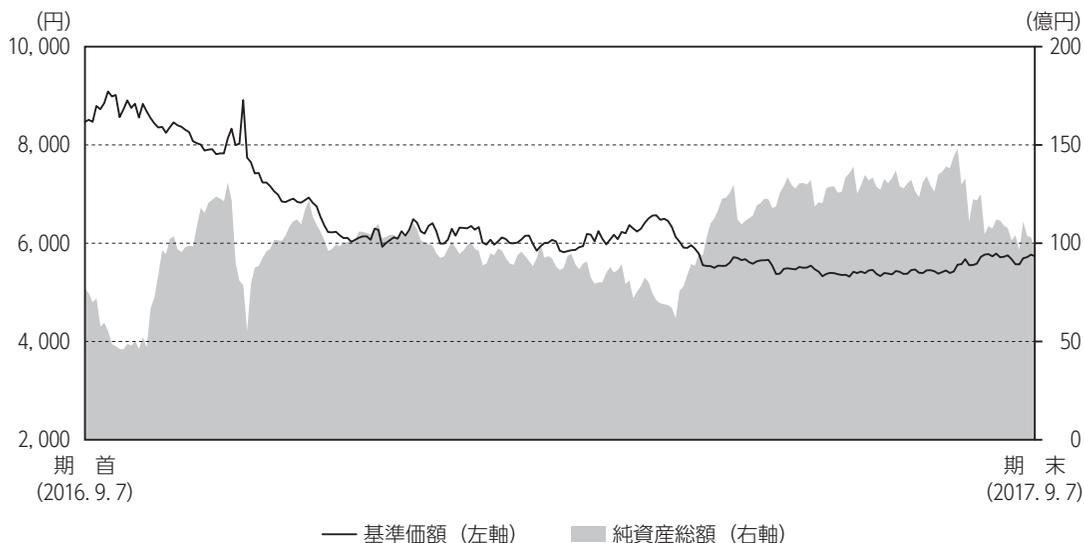
(注 2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注 3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

期首：8,471円

期末：5,737円

騰落率：△32.3%

#### ■ 基準価額の変動要因

日々の基準価額の値動きが日経平均株価の値動きの2倍程度逆となるような運用を行ないました。2016年11月の米国大統領選挙でトランプ氏が勝利し、景気刺激政策への期待などから日経平均株価が上昇したため、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ・ブルベア・ファンドⅣ ベア2倍日本株ポートフォリオⅣ

年 月 日	基 準 価 額		日 経 平 均 株 価		株 式 先物比率	公 社 債 組入比率
		騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期首)2016年9月7日	円	%	円	%	%	%
	8,471	—	17,012.44	—	△ 192.5	28.9
9月末	8,836	4.3	16,449.84	△ 3.3	△ 183.9	12.7
10月末	7,829	△ 7.6	17,425.02	2.4	△ 198.1	1.8
11月末	6,838	△ 19.3	18,308.48	7.6	△ 196.5	14.4
12月末	6,274	△ 25.9	19,114.37	12.4	△ 197.8	—
2017年1月末	6,292	△ 25.7	19,041.34	11.9	△ 197.7	17.2
2月末	6,157	△ 27.3	19,118.99	12.4	△ 200.0	13.9
3月末	6,172	△ 27.1	18,909.26	11.1	△ 205.0	—
4月末	5,959	△ 29.7	19,196.74	12.8	△ 200.9	16.9
5月末	5,660	△ 33.2	19,650.57	15.5	△ 196.7	2.7
6月末	5,419	△ 36.0	20,033.43	17.8	△ 181.4	0.3
7月末	5,452	△ 35.6	19,925.18	17.1	△ 196.2	0.0
8月末	5,570	△ 34.2	19,646.24	15.5	△ 185.6	—
(期末)2017年9月7日	5,737	△ 32.3	19,396.52	14.0	△ 201.1	—

(注) 騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2016.9.8～2017.9.7)

### 国内株式市況

国内株式市況は、期首より、日米の金融政策や米国大統領選挙に関する見方が交錯し、一進一退で推移しました。2016年11月は、米国大統領選挙でのトランプ氏勝利を受けて一時的に投資家のリスク回避姿勢が強まり株価は下落しましたが、その後は、トランプ氏の景気刺激政策への期待から、上昇基調となりました。12月半ば以降は、株価の急上昇に対する警戒感に加えてトランプ氏の政策に対する期待と不透明感が交錯し、一進一退で推移しました。2017年4月に入ると、東アジアの地政学リスクの高まりが懸念され、株価は下落しました。しかし4月後半からは、地政学リスク悪化の一巡に加えて、フランス大統領選挙で中道派のマクロン氏が極右政党の候補者を抑えて当選したことが好感されて株価は上昇しました。6月以降は欧米中央銀行の金融引き締めペースの見方が交錯し、株価は横ばい圏で推移しました。8月に入ると、再び北朝鮮に関わる地政学リスクが高まったことや、米国の物価統計の弱含みにより米国の年内利上げ観測が後退したこと、また対米ドルでの円高が進行したことなどが影響し、株価は軟調に推移しました。

## 前期における「今後の運用方針」

### 当ファンド

当ファンドの運用方針に基づき、マザーファンドの受益証券に投資するとともに、わが国の株価指数先物取引の売建玉の時価総額の合計額が、原則として信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの2倍程度逆となることをめざして運用を行ないます。

### ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

## ポートフォリオについて

(2016.9.8～2017.9.7)

### ■当ファンド

日経平均株価先物取引の売建玉の時価総額の合計額が、純資産総額の2倍程度となるよう調整しました。また、ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券に投資し、純資産総額に対して大きな追加設定および解約があった場合を除き、おおむね50～70%程度の組み入れを維持しました。

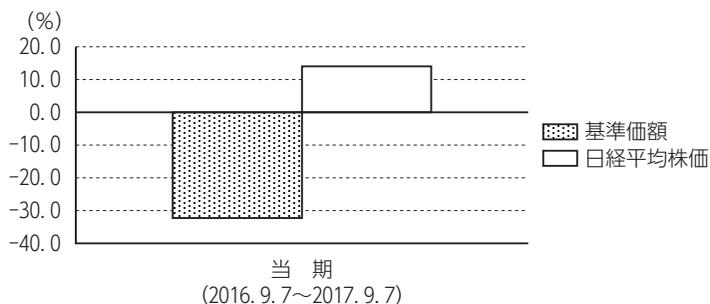
### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債、現先取引およびコール・ローン等による運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目		当 期	
		2016年9月8日 ～2017年9月7日	
当期分配金（税込み）	(円)	—	
対基準価額比率	(%)	—	
当期の収益	(円)	—	
当期の収益以外	(円)	—	
翌期繰越分配対象額	(円)	156	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## 今後の運用方針

### 当ファンド

当ファンドの運用方針に基づき、マザーファンドの受益証券に投資するとともに、わが国の株価指数先物取引の売建玉の時価総額の合計額が、原則として信託財産の純資産総額の2倍程度になるように調整することにより、日々の基準価額の値動きがわが国の株式市場の値動きの2倍程度逆となることをめざして運用を行ないます。

### ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行なう方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2016.9.8~2017.9.7)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	64円	1.004%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は6,375円です。
(投 信 会 社)	(21)	(0.324)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(41)	(0.648)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(2)	(0.032)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	6	0.089	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先 物)	(6)	(0.089)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.005	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	70	1.099	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネー・マザーファンド	12,213,668	12,450,000	10,153,734	10,350,000

(注) 単位未満は切捨て。

■先物・オプション取引状況等

先物取引の銘柄別取引状況・残高状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

銘柄別		買 建		売 建		当 期 末 評 価 額		
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額	買 建 額	売 建 額	評価損益
国 内 株 式	日経平均	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
		—	—	171,465	169,242	—	19,596	△ 35

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

(2) マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

決算期	当 期						
	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況 B	B/A	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況 D	D/C	
公社債	百万円 285,947	百万円 66,921	% 23.4	百万円 —	百万円 —	% —	—
コール・ローン	14,560,589	—	—	—	—	—	—
現先取引 (その他有価証券)	201,999	—	—	200,999	—	—	—

(注) 平均保有割合8.4%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネー・マザーファンド	3,962,173	6,022,107	6,136,527

(注) 単位未満は切捨て。

## ■投資信託財産の構成

2017年9月7日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・マネー・マザーファンド	6,136,527	56.6
コール・ローン等、その他	4,708,088	43.4
投資信託財産総額	10,844,616	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年9月7日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>10,828,336,693円</b>
コール・ローン等	4,097,878,758
ダイワ・マネー・マザーファンド (評価額)	6,136,527,935
差入委託証拠金	593,930,000
<b>(B) 負債</b>	<b>1,083,620,326</b>
未払金	35,119,720
未払解約金	992,577,095
未払信託報酬	55,624,547
その他未払費用	298,964
<b>(C) 純資産総額 (A - B)</b>	<b>9,744,716,367</b>
元本	16,987,006,946
次期繰越損益金	△ 7,242,290,579
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>16,987,006,946口</b>
1万口当り基準価額 (C/D)	5,737円

\* 期首における元本額は9,078,658,972円、当期中における追加設定元本額は156,901,373,403円、同解約元本額は148,993,025,429円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は5,737円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は7,242,290,579円です。

## ■損益の状況

当期 自2016年9月8日 至2017年9月7日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>△ 299,045円</b>
受取利息	2,178,664
支払利息	△ 2,477,709
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>△ 1,569,419</b>
売買益	2,142,684
売買損	△ 3,712,103
<b>(C) 先物取引等損益</b>	<b>370,469,536</b>
取引益	2,684,439,363
取引損	△ 2,313,969,827
<b>(D) 信託報酬等</b>	<b>△ 102,996,811</b>
<b>(E) 当期損益金 (A + B + C + D)</b>	<b>265,604,261</b>
<b>(F) 前期繰越損益金</b>	<b>△ 15,764</b>
<b>(G) 追加信託差損益金</b>	<b>△ 7,507,879,076</b>
(配当等相当額)	(△ 1,558,388)
(売買損益相当額)	(△ 7,506,320,688)
<b>(H) 合計 (E + F + G)</b>	<b>△ 7,242,290,579</b>
<b>次期繰越損益金 (H)</b>	<b>△ 7,242,290,579</b>
追加信託差損益金	△ 7,507,879,076
(配当等相当額)	(△ 1,558,388)
(売買損益相当額)	(△ 7,506,320,688)
分配準備積立金	265,887,542
繰越損益金	△ 299,045

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程 (総額)」の表をご参照ください。

## ■収益分配金の計算過程 (総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	265,887,542
(c) 収益調整金	0
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	265,887,542
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	265,887,542
(h) 受益権総口数	16,987,006,946口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA (ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			公 社 債 組 入 比 率	純資産総額
	税 込 分 配 金	期 騰 落 率	額		
	円	円	%	%	百万円
1 期末 (2016年 9 月 7 日)	9,998	0	△ 0.0	38.8	27,609
2 期末 (2017年 9 月 7 日)	9,992	0	△ 0.1	—	34,096

(注1) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

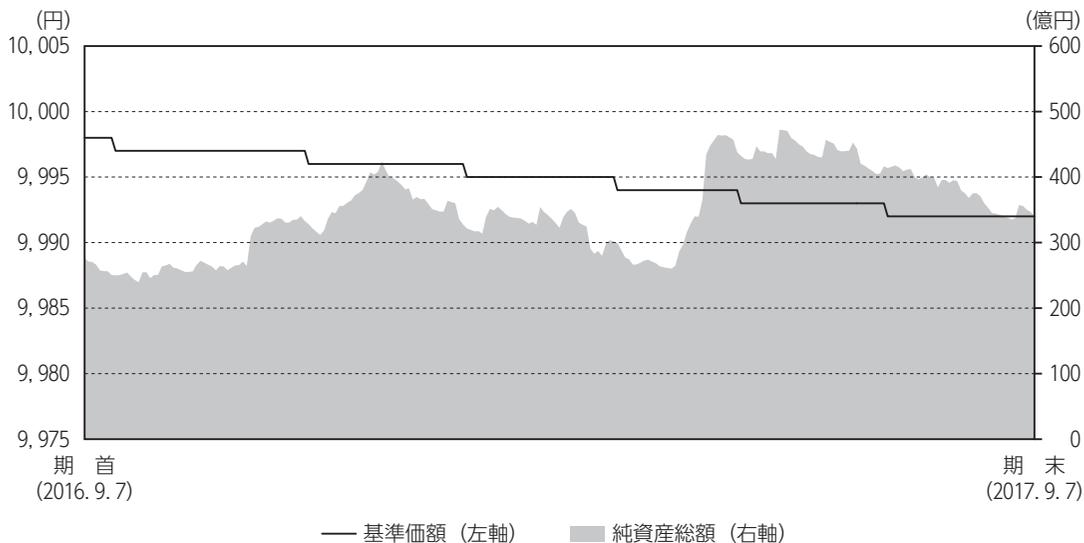
(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは「ダイワ・ブルベア・ファンドⅣ」を構成するファンドのスイッチング資金を一時滞留させる受け皿としての役割をもったファンドであり、わが国の債券を中心に安定運用を行ないます。そのため、ベンチマークおよび参考指数はありません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

期首：9,998円

期末：9,992円

騰落率：△0.1%

#### ■ 基準価額の変動要因

低金利環境であったことなどから、基準価額は下落しました。

ダイワ・ブルベア・ファンドⅣ ブルベア・マネー・ポートフォリオⅣ

年 月 日	基 準	価 額		公社債組入比率
		騰	落 率	
(期首)2016年9月7日	円	9,998	—	% 38.8
9月末		9,997	△ 0.0	17.9
10月末		9,997	△ 0.0	2.4
11月末		9,997	△ 0.0	19.0
12月末		9,996	△ 0.0	—
2017年1月末		9,996	△ 0.0	21.6
2月末		9,995	△ 0.0	17.4
3月末		9,995	△ 0.0	—
4月末		9,994	△ 0.0	22.7
5月末		9,993	△ 0.1	3.7
6月末		9,993	△ 0.1	0.4
7月末		9,992	△ 0.1	0.1
8月末		9,992	△ 0.1	—
(期末)2017年9月7日		9,992	△ 0.1	—

(注) 騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2016.9.8～2017.9.7)

### 国内短期金融市況

期首より、日銀はマイナス金利付き量的・質的金融緩和を継続し、2016年9月には長短金利操作付き量的・質的金融緩和の導入を決定しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

## 前期における「今後の運用方針」

### 当ファンド

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

### ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

## ポートフォリオについて

(2016.9.8～2017.9.7)

### 当ファンド

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないました。

### ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債、現先取引およびコール・ローン等による運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期は、経費控除後の配当等収益が計上できなかったため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目		当 期	
		2016年9月8日 ～2017年9月7日	
当期分配金（税込み）	(円)	—	
対基準価額比率	(%)	—	
当期の収益	(円)	—	
当期の収益以外	(円)	—	
翌期繰越分配対象額	(円)	3	

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ・マネー・マザーファンド」の受益証券へ投資を行ないます。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行なう方針です。

上記の運用方針により、マイナス利回りの短期の国債やコール・ローン等にも投資する場合があります。今後も現在の低金利環境が継続した場合は、ファンド全体の損益がマイナスとなり、基準価額が下落することが予想されます。投資家のみなさまにおかれましては、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2016.9.8~2017.9.7)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	—円	—%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,995円です。
(投 信 会 社)	(—)	(—)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(—)	(—)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(—)	(—)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.001	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	0	0.001	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネー・マザーファンド	56,481,636	57,570,623	51,763,220	52,759,824

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) ベビーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D/C
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	285,947	66,921	23.4	—	—	—
コール・ローン	14,560,589	—	—	—	—	—
現先取引 (その他有価証券)	201,999	—	—	200,999	—	—

(注) 平均保有割合36.5%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期中における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネー・マザーファンド	19,106,450	23,824,866	24,277,539

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年9月7日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ・マネー・マザーファンド	24,277,539	67.6
コール・ローン等、その他	11,661,176	32.4
投資信託財産総額	35,938,715	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年9月7日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	35,938,715,943円
コール・ローン等	11,661,176,505
ダイワ・マネー・マザーファンド (評価額)	24,277,539,438
(B) 負債	1,841,906,562
未払解約金	1,841,804,354
その他未払費用	102,208
(C) 純資産総額 (A - B)	34,096,809,381
元本	34,124,766,294
次期繰越損益金	△ 27,956,913
(D) 受益権総口数	34,124,766,294口
1万口当り基準価額 (C / D)	9,992円

\* 期首における元本額は27,614,789,079円、当期中における追加設定元本額は222,186,324,451円、同解約元本額は215,676,347,236円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,992円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は27,956,913円です。

■損益の状況

当期 自2016年9月8日 至2017年9月7日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>△ 1,436,519円</b>
受取利息	5,208,571
支払利息	△ 6,645,090
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>△ 2,339,725</b>
売買益	5,895,518
売買損	△ 8,235,243
<b>(C) 信託報酬等</b>	<b>△ 224,299</b>
<b>(D) 当期損益金 (A + B + C)</b>	<b>△ 4,000,543</b>
<b>(E) 前期繰越損益金</b>	<b>△ 2,367</b>
<b>(F) 追加信託差損益金</b>	<b>△ 23,954,003</b>
(配当等相当額)	(△) 4,610,981
(売買損益相当額)	(△) 19,343,022
<b>(G) 合計 (D + E + F)</b>	<b>△ 27,956,913</b>
<b>次期繰越損益金 (G)</b>	<b>△ 27,956,913</b>
追加信託差損益金	△ 23,954,003
(配当等相当額)	(△) 4,610,981
(売買損益相当額)	(△) 19,343,022
分配準備積立金	11,650,568
繰越損益金	△ 15,653,478

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しておりません。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程 (総額)」の表をご参照ください。

■収益分配金の計算過程 (総額)

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	11,650,568
(c) 収益調整金	0
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	11,650,568
(f) 分配金	0
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	11,650,568
(h) 受益権総口数	34,124,766,294口

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA (ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

## ダイワ・マネー・マザーファンド

### <補足情報>

当ファンド（ダイワ・ブルベア・ファンドⅣ）が投資対象としている「ダイワ・マネー・マザーファンド」の決算日（2016年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2017年9月7日）現在におけるダイワ・マネー・マザーファンドの組入資産の内容等を27ページに併せて掲載いたしました。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンドの主要な売買銘柄 公 社 債

(2016年9月8日から2017年9月7日まで)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
645 国庫短期証券 2017/2/20	27,570,641		
657 国庫短期証券 2017/4/17	17,880,344		
642 国庫短期証券 2017/2/6	17,230,250		
652 国庫短期証券 2017/3/27	16,550,132		
659 国庫短期証券 2017/4/24	16,270,410		
669 国庫短期証券 2017/6/12	15,870,490		
629 国庫短期証券 2016/11/28	14,720,456		
632 国庫短期証券 2016/12/12	14,020,490		
651 国庫短期証券 2017/3/21	13,160,344		
644 国庫短期証券 2017/5/12	11,970,533		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

### ■組入資産明細表

下記は、2017年9月7日現在におけるダイワ・マネー・マザーファンド（61,185,457千円）の内容です。

#### 国内その他有価証券

	2017年9月7日現在	
	評 価 額	比 率
国内短期社債等	999,999 千円	<1.6> %

(注1) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

# ダイワ・マネー・マザーファンド

## 運用報告書 第12期 (決算日 2016年12月9日)

(計算期間 2015年12月10日～2016年12月9日)

ダイワ・マネー・マザーファンドの第12期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	主としてわが国の公社債への投資により、利息収入の確保をめざして運用を行いません。
主要投資対象	本邦通貨表示の公社債
運用方法	①わが国の公社債を中心に安定運用を行いません。 ②邦貨建資産の組み入れにあたっては、取得時に第二位 (A - 2 格相当) 以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
株式組入制限	純資産総額の30%以下

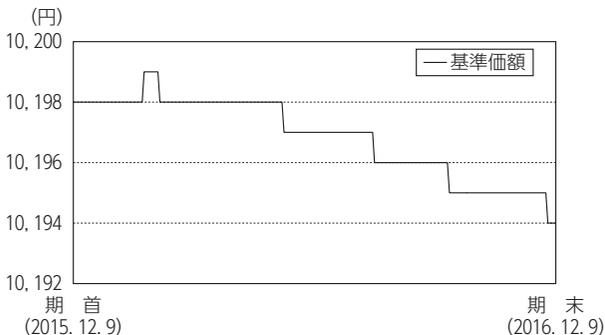
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,198円 期末：10,194円 騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】

低金利環境が継続したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

期首より、日銀は量的・質的金融緩和を継続し、2016年1月にはマイナス金利付き量的・質的金融緩和の導入を、9月には長短金利操作付き量的・質的金融緩和の導入を決定しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利は低下しました。

◆前期における「今後の運用方針」

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なっております。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債、現先取引およびコール・ローン等による運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

年月日	基準価額		公社債組入比率
	円	%	
(期首) 2015年12月9日	10,198	—	55.2
12月末	10,198	0.0	52.1
2016年1月末	10,198	0.0	94.1
2月末	10,198	0.0	50.0
3月末	10,198	0.0	—
4月末	10,198	0.0	3.3
5月末	10,197	△ 0.0	0.1
6月末	10,197	△ 0.0	1.6
7月末	10,196	△ 0.0	19.1
8月末	10,196	△ 0.0	44.5
9月末	10,195	△ 0.0	25.5
10月末	10,195	△ 0.0	3.4
11月末	10,195	△ 0.0	26.7
(期末) 2016年12月9日	10,194	△ 0.0	30.1

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注3) 当ファンドは、利息収入の確保をめぐって安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

■1万口当りの費用の明細

項目	当期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (その他)	0 ( 0)
合計	0

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

(1) 公 社 債

(2015年12月10日から2016年12月9日まで)

		買付額	売付額
		千円	千円
国	国内国債証券	285,828,471	11,349,138 ( 297,450,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子は含まれておりません）。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 単位未満は切捨て。

(2) その他有価証券

(2015年12月10日から2016年12月9日まで)

		買付額	売付額
		千円	千円
国	国内短期社債等	17,999,984	16,999,986

(注1) 金額は受渡し代金。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2015年12月10日から2016年12月9日まで)

		当 期		
		買 付	売 付	
		銘 柄	銘 柄	
		金 額	金 額	
		千円	千円	
613	国庫短期証券 2016/9/12	27,280,379	567 国庫短期証券 2016/2/8	4,999,980
591	国庫短期証券 2016/5/30	24,330,973	566 国庫短期証券 2016/2/1	2,999,991
611	国庫短期証券 2016/9/5	19,330,584	342 2年国債 0.1% 2016/7/15	2,095,779
601	国庫短期証券 2016/7/19	19,020,392	100 5年国債 0.3% 2016/9/20	1,253,387
629	国庫短期証券 2016/11/28	14,720,456		
596	国庫短期証券 2016/6/20	14,390,312		
632	国庫短期証券 2016/12/12	14,020,490		
588	国庫短期証券 2016/5/16	12,500,147		
609	国庫短期証券 2016/8/22	10,870,238		
610	国庫短期証券 2016/8/29	10,390,257		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子は含まれておりません）。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内（邦貨建）公社債（種類別）

作成期	当 期			末			
	額面金額	評価額	組入比率	うちB B格以下組入比率	残存期間別組入比率		
区 分					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	20,580,000	20,580,364	30.1	—	—	—	30.1

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。  
 (注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。  
 (注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

		当 期		末	
区 分	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
		%	千円	千円	
国債証券	632 国庫短期証券	—	14,020,000	14,020,113	2016/12/12
	634 国庫短期証券	—	2,010,000	2,010,039	2016/12/19
	635 国庫短期証券	—	4,550,000	4,550,211	2016/12/26
合計	銘柄数 金額	3銘柄	20,580,000	20,580,364	

(注) 単位未満は切捨て。

(3) 国内その他有価証券

	当 期	
	評 価 額	比 率
	千円	%
国内短期社債等	999,999	<1.5>

(注1) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。  
 (注2) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年12月9日現在

項 目	当 期	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	20,580,364	27.2
その他有価証券	999,999	1.3
コール・ローン等、その他	53,984,185	71.4
投資信託財産総額	75,564,549	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

# ダイワ・マネー・マザーファンド

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年12月9日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>75,564,549,239円</b>
コール・ローン等	53,983,440,401
公社債（評価額）	20,580,364,994
現先取引（その他有価証券）	999,999,178
その他未収収益	744,666
<b>(B) 負債</b>	<b>7,294,738,200</b>
未払金	1,800,034,200
未払解約金	5,494,704,000
<b>(C) 純資産総額（A－B）</b>	<b>68,269,811,039</b>
元本	66,967,614,984
次期繰越損益金	1,302,196,055
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>66,967,614,984口</b>
<b>1万口当り基準価額（C／D）</b>	<b>10,194円</b>

\* 期首における元本額は77,361,886,547円、当期中における追加設定元本額は229,319,669,570円、同解約元本額は239,713,941,133円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ F E グローバル・バリュー（為替ヘッジあり）98,069円、ダイワ F E グローバル・バリュー（為替ヘッジなし）98,069円、ダイワ / "RICI"® コモディティ・ファンド8,952,508円、U S 債券 N B 戦略ファンド（為替ヘッジあり / 年1回決算型）740,564円、U S 債券 N B 戦略ファンド（為替ヘッジなし / 年1回決算型）1,623,350円、スマート・アロケーション・Dガード1,987,559円、N B ストラテジック・インカム・ファンド<ラップ>米ドルコース981円、N B ストラテジック・インカム・ファンド<ラップ>円コース981円、N B ストラテジック・インカム・ファンド<ラップ>世界通貨分散コース981円、堅実バランスファンドーハジメの一步-129,891,397円、D C ダイワ・マネー・ポートフォリオ 2,529,071,704円、ダイワファンドラップ コモディティセレクト317,088,630円、ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）トリプルリターンズー日本円・コース（毎月分配型）132,757円、ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）トリプルリターンズー豪ドル・コース（毎月分配型）643,132円、ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）トリプルリターンズーブラジル・リアル・コース（毎月分配型）4,401,613円、ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）トリプルリターンズー米ドル・コース（毎月分配型）12,784円、ダイワ / フィデリティ北米株式ファンドーパラダイムシフトー29,484,934円、(適格機関投資家専用) スマート・シックス・Dガード495,850,899円、ブルベア・マネー・ポートフォリオ IV 21,858,178,543円、ブル3倍日本株ポートフォリオ IV 34,413,293,504円、ベア2倍日本株ポートフォリオ IV 6,512,563,667円、ダイワ F E グローバル・バリュー株ファンド（ダイワ S M A 専用）4,090,590円、ダイワ米国高金利社債ファンド（通貨選択型）ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）98,290,744円、ダイワ米国高金利社債ファンド（通貨選択型）日本円・コース（毎月分配型）23,590,527円、ダイワ米国高金利社債ファンド（通貨選択型）米ドル・コース（毎月分配型）2,163,360円、ダイワ米国高金利社債ファンド（通貨選択型）豪ドル・コース（毎月分配型）13,761,552円、ダイワ / アムンディ食糧増産関連ファンド4,974,315円、ダイワ日本リート・ファンド・マネー・ポートフォリオ197,896,688円、ダイワ新興国ハイインカム・プラスIIー金積立型ー501,660円、ダイワ新興国ハイインカム債券ファンド（償還条項付き）為替ヘッジあり1,004,378円、ダイワ新興国ソブリン債券ファンド（資産成長コース）49,082,149円、ダイワ新興国ソブリン債券ファンド（通貨αコース）196,290,094円、ダイワ・ダブルバランス・ファンド（Dガード付 / 部分為替ヘッジあり）27,494,856円、ダイワ・インフラビジネス・ファンドーインフラ革命ー（為替ヘッジあり）988,283円、ダイワ・インフラビジネス・ファンドーインフラ革命ー（為替ヘッジなし）4,926,018円、ダイワ米国 M L P ファンド（毎月分配型）米ドルコース13,732,222円、ダイワ米国 M L P ファンド（毎月分配型）日本円コース3,874,449円、ダイワ米国 M L P ファンド（毎月分配型）通貨αコース13,437,960円、ダイワ英国高配当株ツインα（毎月分配型）98,107円、ダイワ英国高配当株ファンド98,107円、ダイワ英国高配当株ファンド・マネー・ポートフォリオ1,724,477円、D C スマート・アロケーション・Dガード95,147

円、ダイワ・世界コモディティ・ファンド（ダイワ S M A 専用）274,626円、ダイワ米国高金利社債ファンド（通貨選択型）南アフリカ・ランド・コース（毎月分配型）98,252円、ダイワ米国高金利社債ファンド（通貨選択型）トルコ・リラ・コース（毎月分配型）2,554,212円、ダイワ米国高金利社債ファンド（通貨選択型）通貨セレクト・コース（毎月分配型）1,178,976円、ダイワ・オーストラリア高配当株α（毎月分配型）株式αコース98,203円、ダイワ・オーストラリア高配当株α（毎月分配型）通貨αコース98,203円、ダイワ・オーストラリア高配当株α（毎月分配型）株式&通貨ツインαコース982,029円、ダイワ米国株ストラテジーα（通貨選択型）トリプルリターンズー通貨セレクト・コース（毎月分配型）98,174円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,194円です。

## ■損益の状況

当期 自2015年12月10日 至2016年12月9日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>△ 17,198,883円</b>
受取利息	△ 3,050,070
その他収益金	744,666
支払利息	△ 14,893,479
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>△ 1,077,368</b>
売買益	242,421
売買損	△ 1,319,789
<b>(C) その他費用</b>	<b>△ 139,970</b>
<b>(D) 当期損益金（A+B+C）</b>	<b>△ 18,416,221</b>
<b>(E) 前期繰越損益金</b>	<b>1,530,291,621</b>
<b>(F) 解約差損益金</b>	<b>△ 4,723,800,173</b>
<b>(G) 追加信託差損益金</b>	<b>4,514,120,828</b>
<b>(H) 合計（D+E+F+G）</b>	<b>1,302,196,055</b>
<b>次期繰越損益金（H）</b>	<b>1,302,196,055</b>

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。